



ベゴニア

～「わかった」「できた」「来てよかった」
の笑顔あふれる補習校～



漢字テスト、合格できたかな？

2024（令和6）年8月31日

文責 校長 佐藤 博

夏休みがあけてすぐに、各学級で「校長先生の漢字テスト」を実施しました。先週のベゴニアでも紹介しましたが、どの学級でも合格目指して最後の1分まで一生懸命挑戦していた姿がとても印象的でした。

本日、80点以上の子には、右のような合格証を渡しています。今回の言葉は、元NFL（全米アメリカンフットボール）選手で、シカゴ・ベアーズの創業者、ジョージ・ハリスさんの「ベストを尽くしたことを後悔した人間は一人もいない」です。私もこのくらいの年齢になると人生、後悔することはたくさんあるのですが、どんなに失敗しても一生懸命やったことに関しては後悔していませんからね。今回、たとえ合格できなくても、ベストを尽くして漢字の練習をしたのであれば、きっと悔いは残っていないと思います。がんばった分だけ自分の力になっていると信じています。これからも悔いのない人生を送るためにも、様々なことにベストを尽くしてほしいですね。



夏休みは家族そろって出かけたという方もたくさんいたとは思いますが、そういう中でもしっかり日本語の勉強をしてきたんだろうな、と思うと本当に感心します。まだ欠席等で試験を受けていない子もいるようですので、あとから受けた子も80点以上であれば合格証をお渡しします。合格目指して頑張ってくださいね。

9月7日(土)は早めの登校をお願いします



いよいよ年に1回のお楽しみ、学年遠足が次週となりました。

前回もお知らせしたように、小学部低学年（1～3年）が「ケッセルロー公園」で朝の9時15分発、小学部高学年（4～6年）と中学部が「ホフスタード」で9時発となります。バスで出発のため待機場所がなく、長い時間待つことができません。時間になったら出発しなくてはいけないため、必ず上の時刻に間に合うように登校させてください。

また、昼食はそれぞれの見学地でとりますので、必ず弁当を忘れずに持ってきてください。もちろんお茶等の水分も忘れないようにお願いします。おやつ等も持ってきて構いません。弁当を食べるときの敷物等も持ってくるようにお願いします。高学年から中学部にかけては、雨でも出かけるため、レインコート等の雨具もあった方がいいかもしれません。詳しくはそれぞれの担任からもらった「遠足のしおり」を確認してください。

なお、その日は全日制が運動会を実施（雨天の場合は午前中授業）しているため、朝、学校に登校したら教室には入らずに体育館に行くようにお願いします。運動会の関係で、保護者控室も家庭科室に変更しています。お間違えのないようにお願いします。また、雨天により低学年が見学地に行けなかった場合は、放課後等の時間がいつもと変わることがありますので、当日もメールの確認をお願いします。

9月7日の図書返却・貸し出しはありません

遠足が実施予定の9月7日は、学校図書室は全日制の見学場所となるため、図書の返却や貸し出し作業ができなくなります。今回借りた本やコミックは、次の週の14日に返却するようお願いいたします。

また14日の朝は、マロニエ祭に向けた「古本回収日」となっています。例年大盛況の古本市、この下にも書いていますが、ここベルギーで日本語の本に触れるというのは、日本語の習得に向けて非常に大きな役割を果たしてくれます。多くの本に出合えるようご協力をお願いいたします。前回同様、晴れていたら裏門入ってすぐの屋根がついて駐輪場で、雨天の場合は玄関ロビーで行います。よろしくお願いいたします。

日本語の習得に向けて①～バイリンガル子育て奮闘記～

夏の間、私も様々な人と出会い、そしてこれからの補習校の教育にも役立てそうな多くの話を聞くことができました。このベゴニアの紙面を使い、少しずつですがそこで聞いた話などをお伝えできればと考えています。1回目の今回は、バイリンガル子育てをされている方が、日本語の習得に向けてどのようなことに気を付けて子育てをしていったのかというお話です。



①日本語でしか通じないよ・・・という環境を設定する

お母さんは日本人、お父さんはフランス人というご家庭だったのですが、お母さんはあえてフランス語を使わず、お子さんと常に日本語で話していたとのこと。というよりもお母さんにはフランス語で言ってもわからないからね、ちゃんと日本語で話してねと伝え、家では常に日本語を使っていたそうです。他にも、〇時～△時まで「日本語タイム」と称し、その間の会話はすべて日本語で行うようにしたという方もいました。いろいろな工夫で子どもたちに日本語を習得させているんですね。

②多言語の言葉が混じってしまわないように注意する

子どもたち、特に言葉を覚え始めた幼児期に見られるそうですが、複数の言語が混ざってしまうことがよくあったそうです。そんな時は否定するのではなく「さっきの〇〇は日本語だと・・・って言うんだよ」と、優しく日本語に言い換えていたとのこと。否定してしまうと子どもたちが日本語そのものに嫌悪感を抱くこともあるので注意すること。また多言語が混じる場合は、「私も混ぜて使ってないかな」「子どもが混ぜて使うのをそのままにしていることがないかな」と、自分自身の話し方を見つめなおしてみるのも大切です、とのことでした。

③楽しく日本語に触れる機会を増やす

今年の夏、日本に行かれた方は日本の学校に体験入学をした、という方もいたのではないのでしょうか。日本の学校はほぼ日本語しか通じない、まさしく上の①の環境にありますので、そこで子どもたちが学ぶこともたくさんあったと思います。またそれだけではなく日本語の本やマンガ、アニメ等、世界には日本の文化が溢れています。インターネットを使えば、日本のテレビ番組等も簡単に見ることができます。またマロニエ祭ではたくさんの日本の本が手に入ります。このように日本語に触れる機会を積極的に増やし、子どもたちの日本語の力を伸ばしていくという方法です。キーワードは「楽しく！」、親が見てほしいもの、呼んでほしいものを与えるのではなく、子どもが興味を持ったものを与えて、楽しく日本語に触れさせること。そうすることで、子どもは自然に日本語を習得していくとのことでした。

1回目の今回は日本語の習得に向けて3つ紹介しました。ただこれはいずれもここのご家庭での話であって、これが正解というわけではありません。各家庭で色々と工夫してみてくださいね。